総　合　診　療

科目責任者　志　水　太　郎
学年　６学年

Ⅰ．前　　文

第４学年時に履修した総合診療の全般の内容を基礎に，本講義ではさらに一歩踏み込んだ内容として，また来るべき医師としての第一歩として特段現場で重要となる急性期の生物医学的観点から，総合診療的視点からの現場思考を学ぶ。

Ⅱ．学修の到達目標

・ショックの鑑別と身体所見の有用性を理解し，実践できる
・病態生理と実学を結び付けて考えることができる

Ⅲ．求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

・事前学習：第４学年時の履修事項（５時間）
・事後学習：第５学年の履修事項（10時間）
　　課題図書，及び，これまで習った医学知識を復習すること。

Ⅳ．授業計画及び方法　＊（　）内はアクティブラーニングの番号と種類

（１：反転授業形式（事前学習用動画等の教材を前もって配付する。原則として授業中に事前学習の内容に関する小テストを行い知識の確認を行う。）
２：ディスカッション，ディベート　３：グループワーク　４：実習，フィールドワーク　５：プレゼンテーション
６：その他）

回数	月	日	曜日	時限	講　義　テ　ー　マ	担　当　者	アクティブラーニング
1	7	23	火	7	これで万全！ショックレクチャー	総合診療医学 志　水　太　郎	1

Ⅴ．評価基準（成績評価の方法・基準）

・筆記試験に準じる

Ⅵ．医師国家試験出題基準（令和６年版）における区分

必修-７-A-⑤
総論（Ⅴ病因，病態生理）-７-A～F

六学年

Ⅶ. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

＊◎：最も重点を置く DP　　○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	○
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	○
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料，情報通信技術〈ICT〉などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

Ⅷ. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題（試験やレポート等）について質問があれば，必要に応じて適宜受け付ける。